

## 平成22年3月期 第3四半期決算短信(非連結)

平成22年1月29日

上場会社名 株式会社 藤商事

上場取引所 JQ

 コード番号 6257 URL <http://www.fujimaruken.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 松元 邦夫

問合せ先責任者 (役職名) 上席執行役員管理本部長 (氏名) 桜井 健一

TEL 06-6949-0323

四半期報告書提出予定日 平成22年2月12日

配当支払開始予定日 —

(百万円未満切捨て)

## 1. 平成22年3月期第3四半期の業績(平成21年4月1日～平成21年12月31日)

## (1) 経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年3月期第3四半期	27,012	△44.2	1,882	△79.1	2,001	△77.9	1,291	△75.9
21年3月期第3四半期	48,401	—	9,000	—	9,063	—	5,368	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
22年3月期第3四半期	5,066.97	—
21年3月期第3四半期	21,055.32	—

## (2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
22年3月期第3四半期	54,093	42,050	77.7	164,931.33
21年3月期	55,866	41,962	75.1	164,589.38

(参考) 自己資本 22年3月期第3四半期 42,050百万円 21年3月期 41,962百万円

## 2. 配当の状況

	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
21年3月期	—	2,000.00	—	2,500.00	4,500.00
22年3月期	—	2,250.00	—		
22年3月期 (予想)				2,250.00	4,500.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

## 3. 平成22年3月期の業績予想(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	57,600	1.3	8,300	1.8	8,400	1.9	5,200	2.4	20,395.76

(注) 業績予想数値の当四半期における修正の有無 無

#### 4. その他

(1) 簡便な会計処理及び四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有

(注) 詳細は、4ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他をご覧ください。

(2) 四半期財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更)に記載されるもの)

① 会計基準等の改正に伴う変更 無

② ①以外の変更 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 22年3月期第3四半期 254,955株 21年3月期 254,955株

② 期末自己株式数 22年3月期第3四半期 一株 21年3月期 一株

③ 期中平均株式数(四半期累計期間) 22年3月期第3四半期 254,955株 21年3月期第3四半期 254,955株

#### ※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記の業績予想につきましては、現時点において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因により、予想数値と異なる結果となる可能性があります。なお、上記の業績予想に関する事項は、添付資料3ページから4ページをご参照ください。

## 定性的情報・財務諸表等

### 1. 経営成績に関する定性的情報

当第3四半期累計期間におけるわが国経済は、個人消費に一部持ち直しの動きが見られたものの、企業収益は減少を続けており、完全失業率が高水準で推移するなど、依然として厳しい状況が続いております。

パチンコホール業界におきましては、パチンコ遊技機では手軽に安く遊べるタイプの遊技機の導入や低貸玉営業が定着し、さらに拡大傾向にあるなど、パチンコを中心とした営業を継続しております。一方、パチスロ遊技機の稼働状況、設置状況は回復の兆しが見られる状況にありません。

遊技機業界におきましては、パチンコ遊技機では、各メーカー間の競争が激しさを増し、多数の機種が発売されているものの、大量導入されるのは集客力の維持・拡大が期待できる一部の有力機種にとどまり、総じて1機種当たりの販売台数は減少しております。また、パチスロ遊技機につきましては、需要の低迷が続いております。

このような状況のもと当社は、パチンコ遊技機では、第2四半期に発売しました「CR相川七瀬 時空の翼」シリーズを当第3四半期においても継続販売したことに加え、著名著作権とのタイアップ機種を2機種、パチスロ遊技機1機種を発売いたしました。

この結果、当第3四半期累計期間の業績につきましては、売上高270億12百万円（対前年同期比44.2%減）、営業利益18億82百万円（同79.1%減）、経常利益20億1百万円（同77.9%減）、四半期純利益12億91百万円（同75.9%減）となりました。

事業の部門別の状況は次のとおりであります。

#### （パチンコ遊技機事業）

パチンコ遊技機事業につきましては、第2四半期累計期間までの発売機種である4機種に加え、著名洋画著作権とのタイアップによる豪快なアクションが魅力の「CRダイ・ハード」シリーズ（平成21年10月発売）、業界初の「ラッキーパト」を搭載した新本体枠「クリスタルファイヤー」第1弾として「CR新暴れん坊将軍 吉宗危機一髪！」シリーズ（平成21年12月発売）を市場投入いたしました。

なお、「CR新暴れん坊将軍 吉宗危機一髪！」シリーズにつきましては、12月より販売を開始いたしました。第3四半期の売上計上は一部にとどまりました。

この結果、当第3四半期累計期間の販売台数は97千台（対前年同期比40.6%減）、売上高は266億64百万円（同42.8%減）となりました。

#### （パチスロ遊技機事業）

パチスロ遊技機事業につきましては、第2四半期累計期間までの発売機種1機種に加え、SF映画とのタイアップ機種「パチスロ エイリアンVSプレデター」（平成21年10月発売）を市場投入いたしましたが、販売台数は低調に推移し、売上高3億47百万円（対前年同期比80.6%減）となりました。

## 2. 財政状態に関する定性的情報

### (1) 資産、負債および純資産の状況

総資産は、前事業年度末に比べ17億73百万円減少し、540億93百万円となりました。

これは主に商品及び製品が35億95百万円、未収還付法人税等が13億95百万円、原材料及び貯蔵品が8億51百万円増加したのに対し、現金及び預金が60億54百万円、受取手形及び売掛金が16億73百万円減少したことなどによります。

負債は、前事業年度末に比べ18億60百万円減少し、120億43百万円となりました。

これは主に買掛金が17億27百万円増加したのに対し、未払法人税等が27億85百万円、未払消費税等が3億89百万円、賞与引当金が3億41百万円減少したことなどによります。

純資産は、前事業年度末に比べ87百万円増加し、420億50百万円となりました。

これは主に利益剰余金の増加などであります。

### (2) キャッシュ・フローの状況

当第3四半期末における現金及び現金同等物（以下「資金」という）は、前事業年度末に比べ60億54百万円減少し、201億36百万円となりました。

当第3四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

#### （営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果使用した資金は、31億4百万円（前年同期は106億60百万円の資金の増加）となりました。

これは主に、仕入債務の増加21億12百万円、減価償却費21億円、税引前四半期純利益20億11百万円、売上債権の減少16億73百万円などが増加の要因であり、法人税等の支払44億88百万円、たな卸資産の増加44億47百万円などが減少の要因であります。

#### （投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は、17億44百万円（前年同期は41億91百万円の資金の減少）となりました。

これは主に、有価証券の償還による収入27億円などが増加の要因であり、有形固定資産の取得による支出19億7百万円、投資有価証券の取得による支出14億70百万円、有価証券の取得による支出10億7百万円などが減少の要因であります。

#### （財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は、12億5百万円（前年同期は10億76百万円の資金の減少）となりました。

これは、配当金の支払によるものであります。

## 3. 業績予想に関する定性的情報

平成22年3月期の業績予想につきましては、平成21年5月13日発表の業績予想に変更はありません。

## 4. その他

### (1) 簡便な会計処理及び四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

#### ① 固定資産の減価償却費の算定方法

定率法を採用している資産については、事業年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定する方法によっております。

### (2) 四半期財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

該当事項はありません。

5. 四半期財務諸表  
 (1) 四半期貸借対照表

(単位：百万円)

	当第3四半期会計期間末 (平成21年12月31日)	前事業年度末に係る 要約貸借対照表 (平成21年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	20,136	26,190
受取手形及び売掛金	5,270	6,943
有価証券	1,203	2,101
商品及び製品	3,719	123
原材料及び貯蔵品	4,398	3,546
前渡金	1,819	1,301
未収還付法人税等	1,395	—
繰延税金資産	300	714
その他	609	424
貸倒引当金	△30	△40
流動資産合計	38,821	41,307
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	2,398	2,499
機械及び装置（純額）	874	1,120
工具、器具及び備品（純額）	1,404	1,317
土地	4,363	4,363
その他（純額）	115	116
有形固定資産合計	9,156	9,417
無形固定資産	177	188
投資その他の資産		
長期前払費用	2,834	2,571
その他	3,120	2,408
貸倒引当金	△17	△26
投資その他の資産合計	5,937	4,952
固定資産合計	15,271	14,559
資産合計	54,093	55,866
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	8,705	6,978
未払法人税等	—	2,785
賞与引当金	118	460
役員賞与引当金	—	180
その他	1,750	2,108
流動負債合計	10,574	12,512
固定負債		
退職給付引当金	701	623
その他	767	768
固定負債合計	1,468	1,391
負債合計	12,043	13,903

(単位：百万円)

	当第3四半期会計期間末 (平成21年12月31日)	前事業年度末に係る 要約貸借対照表 (平成21年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,281	3,281
資本剰余金	3,258	3,258
利益剰余金	35,507	35,426
株主資本合計	42,047	41,966
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	2	△3
評価・換算差額等合計	2	△3
純資産合計	42,050	41,962
負債純資産合計	54,093	55,866

(2) 四半期損益計算書  
(第3四半期累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)
売上高	48,401	27,012
売上原価	28,076	14,809
売上総利益	20,324	12,202
販売費及び一般管理費	11,323	10,319
営業利益	9,000	1,882
営業外収益		
受取賃貸料	62	61
利用分量配当金	9	14
受取ロイヤリティー	15	57
その他	35	41
営業外収益合計	122	174
営業外費用		
シンジケートローン手数料	33	33
賃貸収入原価	19	18
その他	7	4
営業外費用合計	60	56
経常利益	9,063	2,001
特別利益		
固定資産売却益	2	—
貸倒引当金戻入額	22	22
特別利益合計	24	22
特別損失		
固定資産売却損	0	—
固定資産除却損	13	11
特別損失合計	13	11
税引前四半期純利益	9,074	2,011
法人税、住民税及び事業税	3,816	348
法人税等調整額	△109	371
法人税等合計	3,706	719
四半期純利益	5,368	1,291

## (3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第3四半期累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税引前四半期純利益	9,074	2,011
減価償却費	2,031	2,100
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	162	△19
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△84	△341
役員賞与引当金の増減額 (△は減少)	△90	△180
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	71	77
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	△699	—
受取利息及び受取配当金	△25	△31
固定資産売却損益 (△は益)	△2	—
固定資産除却損	13	11
売上債権の増減額 (△は増加)	△6,246	1,673
たな卸資産の増減額 (△は増加)	997	△4,447
未収消費税等の増減額 (△は増加)	142	△326
長期前払費用の増減額 (△は増加)	272	△544
仕入債務の増減額 (△は減少)	3,726	2,112
未払金の増減額 (△は減少)	753	△537
未払消費税等の増減額 (△は減少)	526	△389
その他	1,026	175
小計	11,651	1,344
利息及び配当金の受取額	24	39
法人税等の支払額	△1,015	△4,488
営業活動によるキャッシュ・フロー	10,660	△3,104
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有価証券の取得による支出	△2,606	△1,007
有価証券の償還による収入	1,100	2,700
投資有価証券の取得による支出	△1,259	△1,470
有形固定資産の取得による支出	△1,448	△1,907
有形固定資産の売却による収入	46	—
無形固定資産の取得による支出	△7	△30
その他の支出	△181	△188
その他の収入	164	158
投資活動によるキャッシュ・フロー	△4,191	△1,744
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
配当金の支払額	△1,076	△1,205
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,076	△1,205
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	5,393	△6,054
現金及び現金同等物の期首残高	21,303	26,190
現金及び現金同等物の四半期末残高	26,696	20,136



(4) 継続企業の前提に関する注記  
該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記  
該当事項はありません。